



北極星

人は、星を目指して歩いてはいない。

北極星は、
触れられない。

届かない。
掴めない。

それでも、
人はなぜか、
迷わなくなる。

北極星は、
夢ではない。

成功でもない。
到達点でもない。

「いつか辿り着く場所」ではなく、
「戻れる向き」である。

崩れるのは、
迷ったときではない。

向きが消えたときだ。

地図がなくても、
足場が不安定でも、

向きさえ残っていれば、
人は立ってられる。

北極星は、
進路ではない。

重心である。

現実には、
何度も逸れる。

遠回りし、
立ち止まり、
別の道を歩く。

それでも、
向きだけは、
消えない人がある。

その人は、
成功しなくても、
崩れない。



迷わなくなったのではない。

戻れる場所が、消えなかったただけだ。



Edition — 価値観の航路
別景：北極星

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026